

「原子力国際人材養成コース」概要
 <若手原子力技術者の国際化プログラム>
 <中堅原子力技術者の国際化プログラム>

日本原子力研究開発機構
 原子力人材育成センター

1. 背景

福島第一原子力発電所事故以降、国内では廃炉や安全基準の厳格化に向けての政策が取られる中、世界各国からは事故関連情報をはじめ、安全確保のための新たな技術開発等について情報共有を求められ、また、一部の新興国からは継続して原子力導入への協力を求められるなど、より一層、様々な形での国際的な対応が日本の原子力界に求められている状況にある。また、今後原子力技術の国際的な基準の確立や廃止措置拠点化等においても国際的交流は必至であり、我が国の技術者・研究者等の国際的な活動の機会が増大することが予想されている。

このような状況を受け、原子力人材育成ネットワークを構成する国内の原子力関係機関においては、今後の原子力の国際展開、原子力安全に関する情報の世界への発信等の観点から、技術者・研究者の国際化についての取組みがなされてきており、特に若手の技術者等のコミュニケーション能力の向上に向けた活動が検討されている。

2. 目的・概要

国内の原子力関係各組織（企業、研究機関等）において、将来、国際的視野が求められる職種での活躍あるいは施設の安全を確保する上で指導的立場になることが期待される若手や我が国原子力産業の展開を担っていく人材に、我が国及び世界の原子力のあるべき姿を長期的かつ国際的な視野に立って考える機会を与えるとともに、国際貢献（事故の教訓をベースにした知識・経験の伝承）、新規導入国技術者等との交流拡大・継続的技術指導、欧米技術者との交流・意見交換及び相互協力などに際して必須となる英語によるコミュニケーション能力の向上を目的とした研修プログラムを実施する。

3. コース内容

本コースは、若手原子力技術者、中堅原子力技術者に分けて、実施する。

	若手原子力技術者	中堅原子力技術者
特徴・目的	<p>勉強 - 練習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集中的に英語による原子力テーマ学習を通して、専門外の分野への理解、英語力の強化を促す。 ・研修生の積極的な参加を促す講義・討議・発表セッション、グループ討議・プレゼンテーションにより、自分の考えをまとめ発表し、これらをテーマ別に実施 	<p>実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人講師、国際経験豊かな国内のシニア人材との原子力に係るディスカッション、英語専門講師によるビジネス英語研修を通し、国際人材即戦力となるためのプログラムを提供する。

	<p>することにより、各内容について外国人と意見交換できるようになることを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 外国人講師の他、国際経験豊かな国内外のシニア人材を講師として活用し、若者の国際的業務への動機付けを促進させる。 	
<p><第1部> 準備プログラム</p>	<p>時期： 平成27年1月8日(木)～21日(水)</p> <p>内容： ・8日(木) オリエンテーションを兼ねた研修 ・9日(金)以降 講義分野の専門用語学習 英語での電話面談 原子力に関係した課題提出 (メール・電話での対応)</p> <p>【テーマ例】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本が直面している課題について(各種報告書、見解書等より) 世界から求められている日本の役割について 現状における技術的課題について 	<p>時期： 平成27年1月8日(木)</p> <p>内容： ・オリエンテーション ・トピックスディスカッション ・電話面接 ・他(合宿で討議するテーマ決め等)</p> <p>【テーマ例】</p> <ul style="list-style-type: none"> 海外のエネルギー事情 原子力導入国における課題について 現状における技術的課題について
<p><第2部> 国際人養成合宿</p>	<p>時期： 平成27年1月25日(日)～30日(金)</p> <p>カリキュラム構成： ・講演 2回(1hr×2) ・講義-グループ討議-発表セッション 原子力に係る4テーマ(2.5hr×4) ・グループワーク(6hr) 成果発表会(1.5hr) ・Business Programme(1.5hr×7) ・早朝セミナー他(8hr) (参加型英語研修会合、勉強の仕方等)</p> <p>【テーマ例】</p> <ul style="list-style-type: none"> 廃炉に向けての課題と具体的方策 リスクコミュニケーションとは? 新興国における原子力導入の状況 世界のエネルギー事情と原子力の役割 原子力安全確保に係る課題 放射性廃棄物処理処分の課題 原子力と環境問題(地球温暖化など) 	<p>時期： 平成27年1月27日(火)～30日(金)</p> <p>カリキュラム構成： ・講演 1回(1hr) ・グループ討議-ディスカッションセッション 原子力に係る2テーマ(2hr×2) ・ディベート(準備+実践)(4hr) ・Business Programme(1.5hr×3) ・早朝セミナー他(5hr) (参加型英語研修会合等)</p> <p>【テーマ例】</p> <ul style="list-style-type: none"> 福島廃炉に向けての課題と具体的方策 再稼働に向けての課題

4. 研修生の参加要件

	若手原子力技術者	中堅原子力技術者
対 象 者	<ul style="list-style-type: none"> ・産官学の若手職員（研究者、技術者等） ・年齢：35歳以下 ・日本人の平均的な英語力を有する者（おおよそ TOEIC500 以上） 	<ul style="list-style-type: none"> ・産官学の中堅職員（研究者、技術者等） ・年齢：40代まで ・今後出張を含む国際的な業務が想定される者
定 員	20名	10名

5. 本コースに参加する研修生のメリット

- ・原子力をとりまくテーマについて、講義・ディスカッション・プレゼンテーション作成作業や、専門的な文書についての課題提出・授業を通し、通常業務とは異なる視点から原子力について学ぶ機会が得られる。
- ・合宿前の課題提出、合宿でのディスカッション・プレゼンテーション、あるいは外国人講師によるスピーチ・トレーニング授業を通じて、自分の言葉で英語でも発信できる素地を身につけられる。
- ・講師・メンターにネイティブ・スピーカーを配することで、英語のブラッシュ・アップの機会を得られる。
- ・次代を担う研修生の今後の人的ネットワークの構築に役立つ。

以 上